

# 県立図書館の活動報告

教育委員会報告  
令和4年2月9日



だれでも・いつでも・どこからでも

(県民に役立ち、地域に貢献する図書館)



## 県立図書館の役割

- 県民の読書環境の整備を推進する拠点
- 県民の情報収集を支える拠点
- 県民の学習(課題解決・調査研究)を支える拠点

## 県立の特性・特徴

### ●専門性を活かした支援

司書や社会教育主事の、専門知識を活かした  
県民等への支援、資料収集・保存、情報提供

➡ 図書館を支える職員の資質向上を重視

### ●利用者の多様性・広域性を意識したサービスの提供

県民だれもが、必要とするサービスを受けられる 全県でのサービスの展開

### ●図書館サービスの充実と社会教育の推進の2本が柱



蔵書冊数：1,220,684冊 (R3.3.31現在)

## 1 利用状況

	開館日	来館者数(人)	個人貸出(冊)	団体貸出(冊)	協力貸出(冊)
令和元年	290	451,439	534,359	48,316	24,092
令和2年	290	275,192	476,608	37,633	23,838
前年比(%)	100%	61%	89.1%	77.9%	98.9%

## 2 現状・課題と改善の方向性

- コロナ禍による来館者数の減少と貸出冊数の状況
  - ・学習室や新聞雑誌コーナーの利用者が減少
  - ・利用者の来館回数は減少したが貸出冊数は大きく減少していない(貸出条件：1人10冊)
- 利用者の固定化・高齢化
  - ①幼少期から本に触れる機会、図書館を利用する機会の創出が必要(下記事業)
  - ②図書館を利用できない、しない人へのアプローチ
    - ・読書バリアフリー法等に基づく障がい者サービスなどの充実
    - ・電子書籍サービスの導入
    - ・課題解決、調査研究支援の充実(レファレンスサービス：ビジネス支援、行政支援)
- 公民館等を活用したコミュニティの中での生涯学習の停滞・マンネリ化
  - ・人と人をつなぐ具体策としての「やさしい日本語」学習機会の創出(下記事業)

## 3 事業概要

### ◆ 図書館の利用機会の創出

#### ●小中学校支援プログラムの提供

小学校・中学校の社会見学、修学旅行モデルプランを提案  
県内施設の利用による大分県の歴史・文化等に直接触れる  
機会を通して、児童生徒の主体的な学びの実現を支援

#### ●令和3年度実績

- 城原小(竹田市)
- 八幡小(宇佐市)
- 附属小(大分市)
- 日隈小(日田市)
- 大分支援学校
- 犬飼中(豊後大野市)



活動の様子

### ◆ 「やさしい日本語」学習機会の創出

#### ●外国人とのコミュニケーション拡大推進事業

社会教育施設を核とした「やさしい日本語」の普及や交流  
活動の取組による、県内在住外国人と地域住民のコミュニ  
ケーションの拡大を目指す

#### ●令和3年度実績

- 「やさしい日本語」講演会  
宇佐市、大分市(延べ96名)
- 「やさしい日本語」学習会  
別府市、中津市(延べ49名)
- 地域拡大企画会議  
別府市、中津市(延べ87名)
- コミュニケーションワークショップ  
別府市、中津市(延べ104名うち外国人25名)



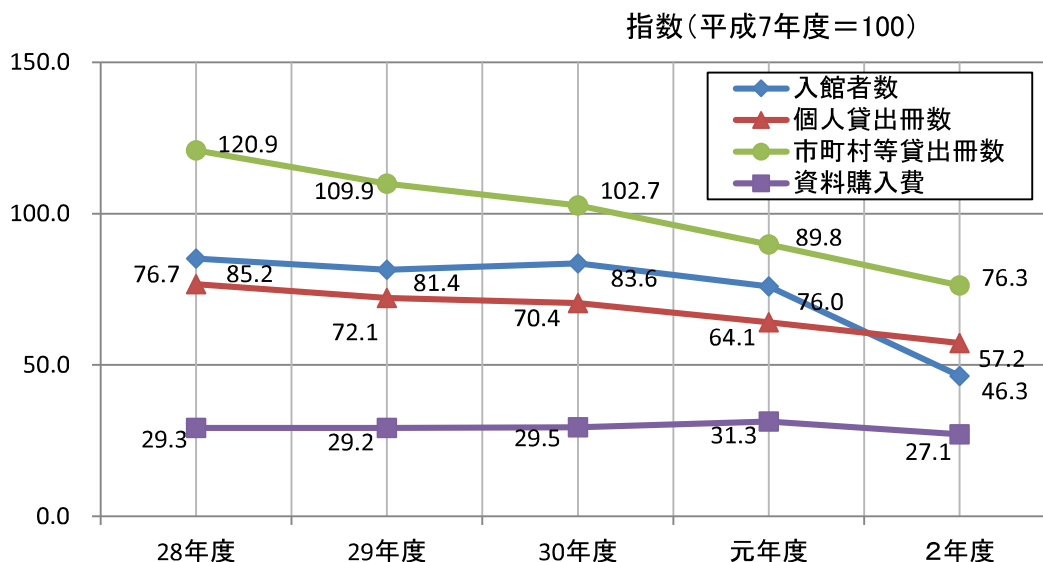
外国人との交流

## 令和3年度の新規取組

- サピエ図書館利用登録、点字図書館との情報共有
- 利用登録の電子申請
- 団体貸出の活用促進・・・放課後児童デイ(3)

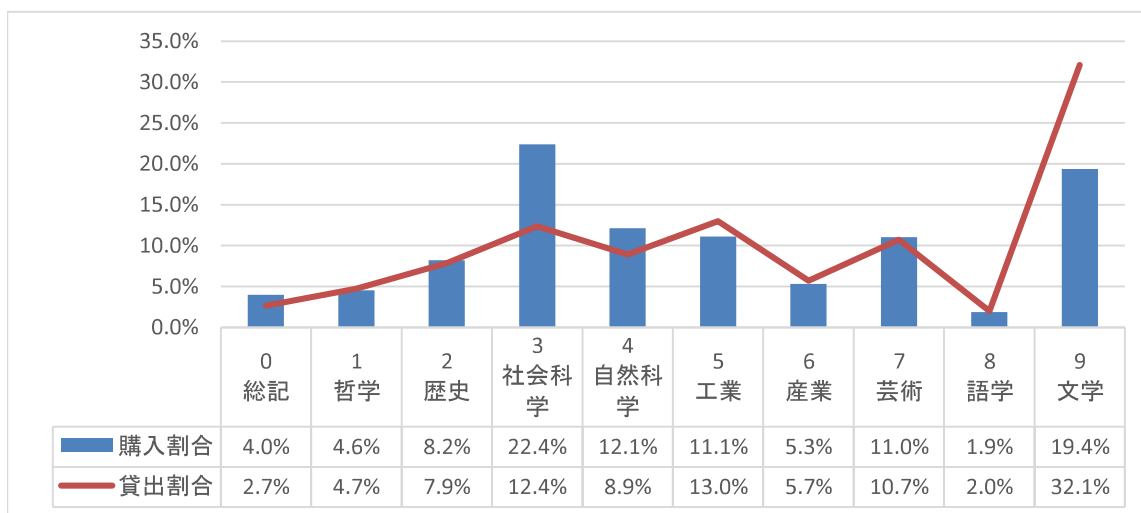
- 郷土資料のDX化
- 災害時における図書館間の連携と支援の検討
- twitterの開設(8月)

## 大分県立図書館利用状況の推移(平成28年度～令和2年度)



## 分類別購入冊数一貸出冊数割合

(一般和書:令和2年度実績)



## 年齢別貸出冊数一割合

(一般和書:令和2年度実績)



# 施設連携による小中学校支援プログラム

○大分市内の県立社会教育施設を活用した小学校・中学校の社会見学、修学旅行モデルプランの提案や各施設が提供できる支援内容を広く情報発信することで、コロナ禍での県内小中学校の学校外での活動プログラム検討の支援につなげる。また、県内施設の利用による大分県の歴史・文化・芸術等に直接触れる機会を通して、児童生徒の主体的な学びの実現を支援する。

## 現状

- 小中学校では、コロナ禍で修学旅行などの学校外での活動が制限
- 児童生徒の思考力・判断力・表現力の育成、主体的な学びの実現
- 県内社会教育施設では、小中学校支援プログラムを有し専門職員が常駐

## 課題

- 県内を学習拠点とした学校外での新たな活動プログラムの検討
- 児童生徒の興味関心、疑問につなげる施設・専門職員の活用
- 学校の利用しやすい環境づくり(具体的プラン等の提案)

## 各施設の学校支援プログラム

学校の求めに応じてカスタマイズされたプログラム提供が可能

<p><b>県立図書館</b></p>  <p>スクールサービスデイ 司書による資料探しの支援 120万冊の蔵書を活用した調べ学習 施設見学(バックヤード見学)</p>	<p><b>県立先哲史料館</b></p>  <p>子ども先哲・歴史講座 読書会用テキスト 展示見学 大分の地震と津波 おおいたの先哲映像</p>	<p><b>県立埋蔵文化財センター</b></p>  <p>おおいたの遺跡VR動画 歴史学習体験キット 発掘体験 展示見学 土器作り体験 火起こし体験 出前授業</p>
---	---	---

## モデルプラン①(社会見学)

小学5年(社会)  
「自然災害を防ぐ」

テーマ: 「過去から学び、命を守るための工夫や準備について考えよう」  
～大分県で過去に発生した地震と津波～

### 県立先哲史料館

活動内容: 地震のことを伝える記録などの紹介。上記講座実施。  
推奨時間: 史料をみる・よむ(30分)、講座(45～90分)

### 県立埋蔵文化財センター

活動内容: 映像視聴(姫島黒曜石の誕生など)  
: 講義(遺跡に現れた地震の痕跡)  
: 体験学習(黒曜石を使った紙切り)  
推奨時間: 映像視聴(20分) 講義(20～45分) 体験学習(20分)

### 県立図書館

活動内容: 見学等から見つけた課題について図書館資料を使って調べる。  
: 県内最大の図書館でのお気に入りの一冊の貸出、施設見学  
推奨時間: 調べる学習(90分) 本探し(30分) 施設見学(60分)

県立美術館↓コレクション展等での県内関連作品の鑑賞

時間や内容に応じて自由に施設を選択

時間や内容に応じて自由に施設を選択

## モデルプラン②(修学旅行)

小学6年(社会)  
「縄文のむらから古墳のくにへ」

中学1年(社会)  
「古墳時代の文化」

テーマ: 「古墳は何のために、どのようにしてつくられたのか」  
「各地の王や豪族はどのようにして力を強めていったのか」

### 県立先哲史料館

活動内容: 後藤碩田の「大化帖」を閲覧し、江戸時代の人々と考古学の関わりを知る。  
推奨時間: 史料をみる・よむ(30分)、講座・ワークショップ(45分)

### 県立埋蔵文化財センター

活動内容: (縄文時代～弥生時代～古墳時代)のテーマに沿った学習  
: 体験学習(土器製作・機織り・鋳造等)  
推奨時間: 講義(20～45分) 展示見学(30分) 体験学習(45分～60分)

### 県立図書館

活動内容: 見学等から見つけた課題について図書館資料を使って調べる。  
: 県内最大の図書館でのお気に入りの一冊の貸出、施設見学  
推奨時間: 調べる学習(90分) 本探し(30分) 施設見学(60分)

## 効果

- 学校の求めに応じた支援による、児童生徒の主体的な学びの実現
- 大分県の歴史・文化・芸術等を見直す機会の提供
- 施設単独での支援から施設連携等による効果的支援への移行

## R3実績

城原小(竹田市)、八幡小(宇佐市)、付属小日隈小(日田市)、大分支援学校、犬飼中

## 小中学校支援プログラム 活動の様子

日時 令和3年10月18日(月)9:45～14:30  
 対象 竹田市立城原小学校 4～6年生 11名 教諭2名

### 内容

JAXAコスミックカレッジ太陽系マップ(90分間) 惑星について調べてみよう  
 城原小学校版 太陽系マップ作成  
 好きな本を借りる

### 活動の様子



日時 令和3年10月22日(金)12:00～14:30  
 対象 宇佐市立八幡小学校 4年生 21名 教諭3名

### 内容

※県立美術館訪問後に当館利用

館内見学(バックヤードツアー)

調べ学習の方法について学ぶ(「OPAM・県図書・自分の好きなこと」に関連した本)

### 活動の様子



日時 令和3年12月9日(木)10:00～12:30  
 対象 日田市立日隈小学校 5年生 45名 教諭4名

### 内容

※当館利用後に県立美術館訪問

図書館の役割について学ぶ

館内見学(バックヤードツアー)

### 活動の様子



# 外国人とのコミュニケーション拡大事業 令和3年度実施内容

【目標】 社会教育施設を核とした「やさしい日本語」の普及や交流活動の取組による、県内在住外国人と地域住民のコミュニケーションの拡大

## 「やさしい日本語」の普及（『知る』）

### 「やさしい日本語」講演会

目的：「やさしい日本語」概要・活用例紹介、多文化共生意識醸成

- 会場：①（宇佐市）院内文化交流ホール 35名  
②（大分市）大分県立図書館 視聴覚ホール 61名
- 対象：一般市民（自治会関係者、企業関係者、学校関係者、日本語指導員、行政職員 等）
- 講師：一橋大学 国際教育交流センター 庵 功雄 教授



### 「まなびの広場おおいた」での学習コンテンツの提供

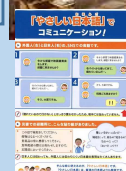
### リーフレット・クリアファイルの作成・配布



学習コンテンツ



リーフレット



クリアファイル

## 学習機会の提供（『学ぶ』）

### 地域住民向け学習会

目的：「やさしい日本語」の書き方・話し方について学ぶ

- 会場：＜別府市＞ 北部地区公民館 21名  
＜中津市＞ 和田コミュニティセンター 28名
- 対象：自治会関係者、防災士会等、企業関係者、学校関係者、日本語教育関係者等（初めて「やさしい日本語」に触れる人）
- 講師：立命館アジア太平洋大学 言語教育センター長 本田 明子 教授



### 行政職員対象「やさしい日本語」講座

目的：市町村及び各施設への「やさしい日本語」の普及・活用の促進

- 【社会教育行政職員専門研修】
- 会場：大分県立図書館 視聴覚ホール 21名
- 対象：県内の社会教育主事、公民館職員、外国人と接する機会の多い行政職員
- 講師：立命館アジア太平洋大学 言語教育センター 布尾 勝一郎 准教授
- 【公立図書館等職員研修会】
- 会場：大分県立図書館 視聴覚ホール 50名
- 対象：県内公立図書館等職員
- 講師：立命館アジア太平洋大学 言語教育センター長 本田 明子 教授



## 学習成果の活用と実践活動例の企画（『つながる』『行動する』）

### 地域拡大企画会議

目的：①「やさしい日本語」の地域普及に向けた企画・立案  
②「やさしい日本語」の指導や普及をサポートできる人材の育成

- 会場 ＜別府市＞2回開催 中央公民館 16名 野口ふれあい交流センター 14名  
＜中津市＞2回開催 和田コミュニティセンター31名 如水コミュニティセンター26名
- 対象：前年度及び今年度の学習会等に参加した地域住民（防災士会、企業関係者、学校関係者、日本語教室指導員、ボランティア経験者 等）
- 講師：立命館アジア太平洋大学 言語教育センター長 本田 明子 教授  
（一財）自治体国際化協会(CLAIR)認定 多文化共生マネージャー 森川 寿子 氏
- 内容 ①「外国人に気持ちよく暮らしてもらうために」 ②「外国人との共生、課題は何？」  
③「企画紹介ポスター作成」



### コミュニケーションワークショップ

目的：①「やさしい日本語」を活用した外国人との交流  
②地域拡大企画会議の具現化に向けた協議

- 会場＜別府市＞2回 西部地区公民館 延べ日本人23名、外国人9名  
＜中津市＞2回 和田・如水 延べ日本人56名、外国人16名
- 対象：地域拡大企画会議に参加した地域住民、在住外国人（国際学生、技能実習生 等）
- 内容：アイスブレイク（交流ゲーム）  
ディスカッション①「困りや悩みの共有」  
②「一緒に取り組みたい企画説明」  
③「企画の完成に向けて」④「広報・告知について」



# 団体貸出サービス

県立図書館では、各種団体へまとめて本を貸し出す「団体貸出」サービスを行っています。

地下1階に専用の書庫があり、子ども向けから一般向けの本まで約12万冊の蔵書を用意しています。

## (1) 利用できる団体

学校、公民館、読書グループ、読み聞かせグループ、幼稚園・保育園（所）、地域文庫、福祉・介護施設 等

## (2) 利用できる冊数・期間

1,000冊まで3か月以内の期間で貸出します。

## (3) 利用できる日時

月曜日から金曜日の午前9時～午後4時30分  
(祝祭日及び休館日を除く。)



## (4) 利用するには

- ・「団体貸出文庫利用申請書」を提出が必要（様式はHPに掲載）  
審査、登録に1週間程度かかります
- ・貸出、返却とも、利用者自身で手続きを行う
- ・貸出、返却とも、事前に来館時間の予約が必要

令和3年3月

## 子ども学習支援文庫の新設

津久見市出身の故 三浦 通 氏の寄付により購入  
学校や団体等への貸出により大分の未来を担う子ども達の育成を支援します。

### 教科書に出てくる本 約850冊

県内の小学校で使用されている国語教科書に掲載されている本を集めました。

### 英語の本 約320冊

絵本が中心です。よく知られている絵本のほか、日本の絵本の英語版もあります。

A B C

### 英語学習の本 約30冊

英語を学ぶのに役立つ本  
・子ども向けの英語辞典  
・英会話の本 等



困りを抱えた子どもへの支援として、フリースクール・放課後児童デイ等の団体にも積極的に働きかけを行っていく